

## 近代以前の通信 コーナー 郵便制度の誕生と発達

文字が発明され国家が形成されるようになると、中央と地方を連絡する道路や通信の組織が必要となってきます。最初は、使者に手紙を持たせましたが、その必要性が高まると、適当な人を定め、専門の使者の役目をさせました。これが飛脚の始まりで、世界各地にさまざまな形態の飛脚が誕生しました。

このコーナーでは、16世紀初め頃までの情報の伝達がどのように発達し、近代郵便への礎を築いていったかを年表とビデオ映像により紹介しています。今回は、手紙による通信のはじまりについてご紹介します。

**駅制** 一定の距離ごとに駅を置き、馬で駅伝式に公用の書状を継ぎ送るしくみです。組織的な駅制は古代ペルシャが最古で、これにならって、古代ローマではクルスス・プブリクスと呼ばれる駅制が設けられました。この利用は、国に限られ、一般の人は使用できませんでした。

**ヨーロッパの通信** 5～15世紀ごろ、キリスト教会間の連絡に、僧が使者となり手紙を運ぶ「僧院の使者」、学生が故郷との連絡に使用した「大学飛脚」等、さまざまな飛脚が誕生しました。16世紀になるとイタリアの貴族タクシスは、広範囲な通信連絡網を創設しました。このことが、今日の郵便制度にまで発展する基礎となりました。

### 外国切手にみる通信の歴史



3階展示馬「郵便制度の誕生と発達」コーナー



中国甘肅省の駅遞を描く墓室内壁画



ペルシャ帝国アケメネス朝の遞送人



修道院間（スペイン-フランス）の手紙を届ける巡回修道僧



タクシス郵便配達人

## 学芸員雑記帳

### 「小包郵便の開始」

小包郵便は、明治25（1892）年10月1日から始まりました。それまで小包郵便を扱わなかったのは、小包郵便は民間の運送業を圧迫するという意見などが強かったからです。明治25年6月に小包郵便法が公布され、10月1日に施行されたものです。ただし、初年度は東京のみで扱い、翌26年度から全国770局に広げました。料金は当初重量・距離制でしたが、明治35（1902）年から距離制を廃止し重量制のみとしました。重量制のみの時代は、昭和23（1948）年までで、昭和26年からは重量・地帯制となりました。また、価格表記を設け、損害賠償を行うことが定められました。明治26年当時東京から仙台まで1kgの小包は16銭、長崎までは32銭でした。（当時の郵便葉書1銭、白米（標準価格米）10kg67銭、新聞1ヶ月朝刊のみ28銭）（井上恵子）



東京名所上野公園  
有山定次郎画 明治29年



「郵便電信双六」の一部分  
郵便小包車と書生が郷里より小包が届いてその便利さを実感している様子。左端は、郵便局の窓口  
田山宗堯画 明治35年